

市立病院・診療所紹介：総合水沢病院

総合水沢病院は、昭和26年5月に胆沢地方国民健康保険町村組合水沢病院として開設され、昭和45年10月に水沢市国民健康保険総合水沢病院に、平成18年2月奥州市施行の際に、奥州市総合水沢病院に名称変更しています。



一般病床145床、感染病床4床

標ぼう診療科は、内科、小児科、循環器内科、外科、整形外科、泌尿器科、精神科、麻酔科、神経内科、耳鼻いんこう科、産婦人科

菊池院長から、「当院は市立病院として、常に市民目線を意識した垣根のないそして融通性のある温かい医療を心がけたいと考えています。地方では少子高齢化・人口減少に伴い医療資源を有効利用するために病院の役割分担がより明確になってきていますが、当院は昨今のコロナ禍の中では感染症医療の砦として力を注ぎました。今後もその継続に務めるとともに、ある部分では急性期医療に関わっていく所存です。また市民の皆さんがこの住み慣れた地域で安心して暮らし通せるような全人的医療を目指して、回復期医療から在宅医療の充実にも力を入れていく方針です。今後予定されている新市立病院への統合に向けて、市民の皆さんに理解が得られるように襟を正して地域医療に臨みたいと思います。」とのコメントをいただきました。

奨学生や養成医師の皆様、是非、病院見学をお待ちしています。

連絡先：総合水沢病院

〒023-0053 岩手県奥州市水沢大手町3-1
TEL0197-25-3833 FAX0197-25-3832
<http://www.mizhsp-iwate.jp/>

岩手県内の新型コロナウイルス感染の状況

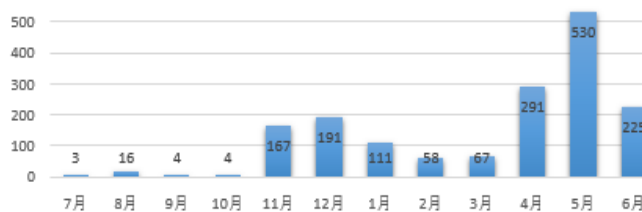
岩手県内の月間新型コロナウイルス陽性者は、6月27日現在で1,667人です。5月に比べて減少しましたがまだまだ高い水準にあります。

患者の状況(令和3年6月27日15時00分発表)は、

累計患者数	うち入院・療養数(重傷者)	うち退院・療養解除	うち死亡
1,667人	50(1人)	1,571人	46人

岩手県内の月別コロナ患者数(令和3年6月27日現在)

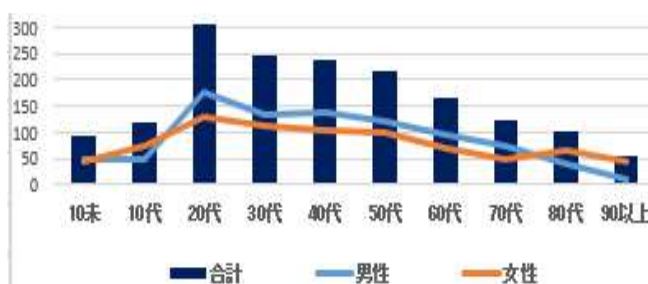
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
患者数	3	16	4	4	167	191	111	58	67	291	530	225



年代別患者数と無症状者数 R2.3~3.6.27 (単位: 人)

年代	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90上	合計	比率
男性	48	48	176	134	137	120	94	72	40	11	880	男性
無症状	13	10	25	32	27	18	23	15	5	1	169	19%
女性	45	72	131	112	102	99	70	50	63	43	787	女性
無症状	22	17	23	15	26	25	16	13	20	15	192	24%
合計	93	120	307	246	239	219	164	122	103	54	1667	合計
無症状	35	27	48	47	53	43	39	28	25	16	361	22%
比率	38%	23%	16%	19%	22%	20%	24%	23%	24%	30%	22%	

県内の年代別コロナ患者数 R2.3~3.6.27 (単位: 人)



大谷翔平選手の成績ボード(R3.6.28 現在)

打者 打率 277 本塁打 25 打点 59 盗塁 11
投手 防御率 2.58 勝利 3 敗戦 1 奪三振 82

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。

令和3年6月28日発行 奥州市医療局医師確保推進室

〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833

後藤新平記念館と後藤伯記念公民館

平成 19 年 3 月・23 年 4 月号『広報おうしゅう』記事より

50 年先を見通した先見性と、科学的な調査に基づいた大胆な政策で知られる後藤新平。記念館は、多くの分野で功績を残した先人を顕彰しようと、民間からの寄付を基に昭和 53 年 9 月に開館しました。

台湾総督府民政長官、南満州鉄道初代総裁、内務・外務大臣を歴任するなど華やかな経歴とは裏腹に、簡素かつ重厚な記念館の外観は、生涯無私を通した新平の生きざまを表しているかのようです。

新平は、安政 4 (1857 年)、現在の水沢区吉小路で生まれました。医学を志し、24 歳の若さで愛知病院長に。その後ドイツへ自費で留学し、衛生制度や社会政策を学んで帰国。内務省衛生局長に抜擢されました。



① 関東震災後の帝都復興計画図。外周を半円状に走っている線は、現在の環状 7 号・8 号線の原型



優れた政策と実行力が認められた新平は、公衆衛生行政にとどまらず、やがて政治家として活躍の舞台を広げていきました。

記念館では「後藤の大風呂敷」ともいわれた、東京市長時代の近代化大事業計画の資料をはじめ、膨大な資料を収蔵しています。関東大震災直後、帝都復興院総裁として手掛けた復興計画は、現在でも東京都の都市づくりの原型に活かされているといわれ、興味深い資料の 1 つです。また、豊富に残された資料からは、多くの功績の陰に隠れた、新平の意外な人柄も見えてきます。



② 御影石で仕上げられた外観。録音した新平の肉声を聴けるなど貴重な資料を数万点収蔵

③ 東京市政調査会から寄贈された資料を中心に時代順に並べられた展示室

後藤伯記念公民館：市役所の北東にある優美な木造建築。後藤伯記念公民館は、日本で初の「公民館」である。名を冠する後藤新平は、大風呂敷と呼ばれ、東京市長や関東大震災後の内務大臣兼帝都復興院総裁を務めた。同館は昭和 16 年、新平に恩のある読売新聞社・正力松太郎社長が感謝の念から建築・旧水沢町



へ寄贈された。本館部分は、木造平屋瓦葺建一部 2 階建て。神社建築に見られる大切妻の三角屋根が、春の日差しに輝く。駐留軍に接收されたこともある同館。

焼失した役場の臨時庁舎、結構式や水沢市初の成人式会場も務めた。人々の暮らしを彩り、その悲しみや喜びを見つめ続けてきた。そして今年 3 月(注：2011 年 3 月)東日本大震災で大きな被害を受けた沿岸部への、救援物資の受付窓口として善意が集まる場所に、「人のお世話をし、報いを求めない」新平の自治三訣の精神は、今に生き続ける。



大切妻の三角屋根がシンボルボーイスカウト姿の後藤新平と正力松太郎の銅像が並んでいる。

場所：〒023-0053 奥州市水沢大手町 4-1 電話 0197-25-7870 休館日：月曜日